

白石町長
コラム
Vol.51

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

上士幌町の魅力を感じた視察

北海道上士幌町に視察に行ってきました。以前からふるさと納税で成功した町として知っていました。今回の視察でその背景を知ることができました。鍵を握るのは、現在5期目となる竹中貢町長の手腕でした。人口約5,000人の過疎の町ですが、町長自らが資料を作成し、プレゼンテーションをする。先進的な取り組みが多く、町長が発想したことを、職員がスピーディに実行していく。最初の頃は、うまくできなかったこともあったようですが、次第に成功体験を積み、「やればできる」ことを実感することで職員が頑張るとのこと。なぜその事業をしなければならぬのか、町長が直接全職員に30分以上語り、年に数回あるそうです。スピード感と外部の人とのつながり力も抜群です。移住定住のキーパーソンにも会いました。特定非営利法人上



▲視察で訪れた「道の駅みしほろ」

の両方の気持ちがかかるかけ橋として頑張っておられます。そして、上士幌町を帰りたい町になって欲しいと願っておられます。移住定住についての彼女の発言が印象的でした。「地元の良いことだけを言うのではなく、現実をしっかりと伝えることが大切。その上で、この場所でも何をしたいのかを持っている人に来てもらう。そうしていくことで、この人がいるから、行ってみたいという、まさに人が人を呼ぶ地域になる」と。上士幌町の魅力を感じた視察になりました。

士幌コンシェルジュの川村昌代さんです。かみしほろ暮らし担当マネージャーの彼女いわく、「町長がぶれないのがいい」そうです。京都から上士幌町に帰ってきた彼女は、地元の人、移住してくる人

「信頼され、期待に応える役場づくり」プロジェクトチーム(※)活動報告

今から2年前、町長と担当課職員で、当時3年連続人口

社会増を実現されていた岡山

県新庄村の視察を行いました。

その視察がきっかけとなり、

これまでに様々な分野でお互いに交流をしてきました。

そしてこの度、新庄村役場

から、このプロジェクトチームの取り組みについての視察

依頼をいただき、3名の職員

の方が9月28日(月)に来庁

され、第2回目の会議を視察

されました。

このプロジェクトチームの

会議の特徴として、「すべての

メンバーが思ったことを率

直に発言することができ

ることが挙げられます。第2回

目の会議でも、第1回目の会

議を基に、リーダーが作成し

た具体的行動基準の案につい

て、忌憚(きたん)のない意見を交換し

ながら、加筆・修正を行って

いきました。

会議を終えて、新庄村役場

総務企画課千葉智明主任は、

「メンバーのみなさんの熱意

が大変伝わりました。一緒に

伺った2名の若手職員も、会

議の雰囲気の良いさをしきりに

話していました。また伺いま

す」と話されていました。

引き続きプロジェクトチー

ムは活動を通して、「小規模

自治体」が抱える課題の解決

につなげていきます。



▲第2回目の会議の様子



これまでの活動はこちら！
これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

※「信頼され、期待に応える役場づくり」プロジェクトチームとは・・・町長をプロジェクトリーダーとし、町長により選任されたメンバーで構成。令和2年8月20日に結成し、「信頼され、期待に応える役場づくり」について課を越えて取り組む。